

患者サポートセンターだより

地域医療連携 特集

2024 August



地域との信頼関係を大切に、
患者さんに満足いく医療を提供したい

武田総合病院
副院長・患者サポートセンター長
脳神経外科部長

川西 昌浩
MASAHIRO KAWANISHI

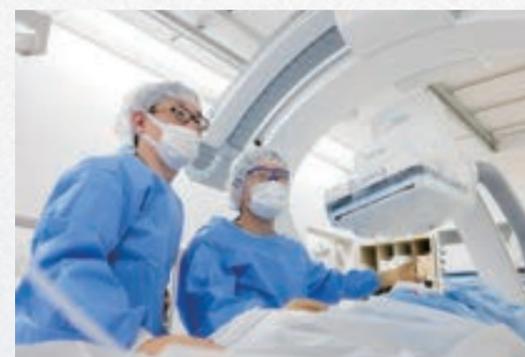
医療法人 医仁会
武田総合病院

TOPICS

川西医師について *About Dr.Kawanishi*

脊椎圧迫骨折に対するセメント治療のパイオニアとして数多くの実績

私は2002年以降、脊椎圧迫骨折に対するセメント治療(経皮的椎体形成術)を多く手がけてまいりました。脊椎が圧迫骨折すると激しい痛みを伴い、身体・精神ともに大きな影響があります。この治療は局所麻酔でメスを使用せず、短時間でできるため患者さんの負担が少ない治療だと言えます。手術自体は5分~10分で、麻酔などの時間を入れても30分程度で終了します。



1999年に武田総合病院に着任した当初は、圧迫骨折の治療はすべてコルセットを着用して安静にしようという治療が標準的でした。その頃から圧迫骨折に対して、セメント手術で痛みが取れることは文献上では明らかになっていましたが、実践経験を積むため海外に渡りトレーニングを繰り返し、動物実験を行い、2002年に治療の実現に至ることができました。昨年9月よりDSA装置(血管造影装置)の導入により、さらに精度の高い治療が可能になっています。

セメント治療の適応は圧迫骨折直後の、強い痛みがある場合です。低侵襲で患者さんへの負担が少なく、痛みをしっかりと取ることができますので、圧迫骨折に苦しむ患者さんにはぜひご案内ください。

患者さんを幸せにしたい。今も留まることはない医療への追及心。

私が脳外科医を志したのは、医学生時代の脳外科の教授に憧れたことがきっかけでした。最初は単なる憧れでしたが、手術実習で頭部から目の神経を見た時、あまりの美しさに衝撃を受け、脳神経外科の医師として働くことを一生の仕事にしたいと強く思いました。

しかし、私が脳神経外科を志した40年前では、患者さんが手術後に亡くなったり、重症となることがしばしば起こっていました。本当に何度もじけそうになりました。同じ轍を踏まず、どうしたらうまくいくのか、その一心で動物を使ってひたすら手術修練をし、海外渡航をして遺体解剖を繰り返し、多くのエキスパートから学び、自分たちの診療を学会や論文執筆を通じて公表、他者評価を受けてきました。

武田総合病院に着任してからは、早25年が経ちました。脳や脊髄といった重要な臓器に病気を患った患者さんに少しでも幸せになっていただくにはどうすべきか、培った経験や技術、知識をどのように患者さんに還元し社会貢献するかを考えるようになりました。7人の後輩とチームを組んで常に研鑽を積み、患者さんへの負担を軽くして満足していただける治療をこれからも提供してまいります。



医療法人 医仁会
武田総合病院

〒601-1495 京都市伏見区石田森南町28-1
TEL 075-572-6331(代表)

病院HPはこちら



患者サポートセンター

TEL 0120-72-6530(フリーダイヤル)

TEL 075-572-6530(直通)

FAX 075-572-6276(直通)

受付時間 平日 8:30~19:00

※土曜17:00まで ※日祝、祭日、年末年始を除く



武田総合病院
副院長・患者サポートセンター長
脳神経外科部長

川西 昌浩

地域医療連携の流れを円滑にする 患者サポートセンター

私は脳神経外科部長かつ副院長であるとともに、患者サポートセンター長を務めています。武田総合病院の患者サポートセンターは、地域の医療機関との円滑な連携を推進すべく、医師や看護師、社会福祉士、事務職員が1つの組織となり2019年に開設されました。当院は救急告示病院として、急性期医療に重点を置き、24時間救急医療を行う体制を整えています。しかし、より多くの患者さんの命を守っていくためには、地域の先生方のご理解は必要不可欠です。

専門的な治療が必要な患者さんは当院へご紹介いただき、病状が落ち着かれた後の外来治療・療養はお任せし、ともに患者さんを支えていく必要があります。この流れをより円滑にすることが、患者サポートセンターの一番大きな役割です。地域の先生方が患者さんの紹介先をお探しの際お困りにならないよう、患者さんの受け入れを断らない方針です。日々忙しくされている地域の先生方を力強くサポートしていくことも、我々の大切な使命だと考えています。

脳卒中の患者さんを救うために 整えてきた環境とチームワーク

当院は脳卒中ケアユニット(SCU: Stroke Care Unit)を6床有し、脳卒中急性期の患者さんに対し、脳卒中診療担当医師(うち脳卒中専門医6名)が24時間365日脳卒中患者に対するrtPA療法(血栓溶解療法)及びカテーテル治療(機械的血栓回収術)を行っております。ひきつづき専門の看護師、理学療法士や言語聴覚士などのリハビリスタッフチームとなり、超急性期からリハビリを行い、一般病棟に移動後に本格的なリハビリが開始されます。その後にも集中治療を行い、病棟の看護師やサポートセンター員が患者さんやご家族と密なコミュニケーションを取り、転院などをサポートしております。脳卒中相談窓口も設置し、日本脳卒中学会認定の脳卒中療養相談士が患者さんやご家族に対して情報提供や相談支援、復職支援までおこなっております。これらは脳卒中学会が認めるPSCコア施設(二次脳卒中センターコア施設)の認定要件をすべて満たしており、2024年度、同学会に施設認定登録を申請しております。当院に搬送されてから退院されるまで、多職種でチームとなり様々な面で患者さんやご家族をしっかり支えてまいります。

早期対応と治療後のサポートは 地域全体での協力が必要

脳卒中で搬送される患者さんは近年非常に増加しており、高齢の患者さんは特に増加傾向です。脳卒中は発症から3時間、遅くとも6時間以内に処置を行うことが非常に重要ですが、高齢化率の上昇や独居の増加により発見や搬送までの時間を要してしまうなど、高齢化社会に伴う問題は多々あります。この問題の解決には、日ごろから患者さんへの脳卒中に関する啓蒙・啓発が必要であり、地域の先生方にもご協力いただきたい部分です。

また、患者さんが激しい頭痛を訴えている、呂律が回らないなど、少しでもおかしいと感じられたら躊躇することなく当院へお送りください。24時間365日、血栓回収治療を行う体制を整えており、時間外であっても随時、脳卒中治療の当直医がMRI検査から立ち合い対応することが可能です。治療後のリハビリについても充実を図っており、土日もリハビリができるよう体制強化を進めています。しかし病床には限りがあるため、更にリハビリが必要となる患者さんについては、地域の回復期・療養型の病院への転院や、クリニックへの外来受診など、地域の先生方にもご協力いただきながら患者さんの社会復帰を支えていきたいと考えています。

また、現在当院の脳神経外科では、救急専従の対応や脳血管内手術や内視鏡治療など、各々専門分野が異なる医師がチームワークを発揮し治療にあたっています。チームで診ているため、自分の担当患者さんでなくとも対応することが出来る体制です。脳卒中に限らず、脳脊髄、末梢神経領域で迷うことやお困りのことがあれば、気軽な相談窓口をぜひ紹介ください。



インタビュー全文はこちら



脳卒中相談窓口